

南が原市場になった訳

学芸職員 波田 尚大

飯能市は昭和 29(1954)年 1 月 1 日に誕生し、令和 6(2024)年 1 月 1 日で市政施行 70 周年を迎えます。飯能市誕生の 2 年後の昭和 31(1956)年 9 月 30 日に東吾野村・吾野村・原市場村が飯能市に編入する形で合併しました。

いわゆる「原市場地区」は、現在の住居表示で言うと 9 つの大字、原市場・下赤工・上赤工・赤沢・唐竹・中藤下郷・中藤中郷・中藤上郷・南に分かれています。ご存じの方も多いと思いますが、南は旧原市場村ではなく、旧吾野村でした。画像は合併直前の原市場村の地図ですが、南の部分は吾野村と記載されていることがわかります。

合併の三か月前の、昭和 31(1956)年 6 月 27 日の文化新聞の記事によると、大字南の内、中沢は原市場と共に飯能に合併することを望んでいました。同年の 9 月 21 日付の記事に、昭和 29(1954)年から中沢の小・中学生は原市場村の中藤小学校・原市場中学校に通っていたことが記載されていますが、そのことも原市場との合併を希望する理由の一つであったようです。合併が決まった後も、中沢の 3 名の代表が飯能市役所を訪れ、中沢を吾野地区ではなく、原市場地区とするようとの希望を伝えています。

合併後は、その年末に中沢が原市場地区に編入となった記念の懇親会が開催されたり、戦没者慰霊祭を原市場地区で参加するようになるなど、お互いの歩み寄る姿勢が当時の記事から読み取れます。このように、中沢を中心とした大字南は、原市場地区になりました。

ご紹介した原市場地区をテーマとした飯能市市制施行 70 周年記念事業の特別展を 10 月 15 日(日)から 12 月 10 日(日)まで飯能市立博物館で開催いたしますので、ぜひご覧ください。



合併直前の原市場村の地図